

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0801027
	②		福祉	H0403037
	③		福祉	H1401063
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	南六郷保育園			
事業所連絡先	〒	144-0045		
	所在地	東京都大田区南六郷1丁目33番1号 101号室		
	TEL	03-3731-3430		
事業所代表者氏名	芦川 美香乃			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 10月 11日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 10月 11日			
訪問調査日	2023年 10月 18日			
評価合議日	2023年 10月 18日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 27日

事業者代表者氏名

芦川 美香乃

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)一人ひとりを大切に、人格を尊重し肯定的にとらえて保育する。 2)一人ひとりの成長を保護者と共有し、適切な関わりや援助を行い、生きる力を育む。 3)恵まれた環境を生かし、自然に対する興味や関心を育てると共に、のびやかな体作りを目指す。 4)保護者の状況を理解、援助することでより良い関係を築き、共に子育てし合う関係を作っていく。 5)地域の中の公立保育園として、保育園の資源や培ってきた子育ての知識を生かし、地域の子育て支援を行う。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を尊重し、最善の利益を考慮した保育を行います。 ・子ども一人ひとりに寄り添い、発達や特徴を十分に把握し、子どもが安心して主体的に遊べるように保育します。 ・区立保育園の様々な役割を理解し、保育に関する専門性を有する職員として、保護者支援、地域支援の充実を目指します。 ・自らの人間性や専門性の向上を目指し、常に自己研鑽に努めます。 ・区立保育園の様々な役割を理解し、園内外の支援が行える職員であること <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる人間形成の基礎を培う仕事であることに、誇りと責任を持ち、自分の強みはフルに生かし、弱みは互いに協力し合い専門性を高めていく。 ・子どもにとって安全で落ちついて生活ができる環境を整え、成長発達に必要な経験を保障すること。 ・職員同士のコミュニケーションや情報共有を密にし、チーム力を高める努力をすること。 ・クラス保育、園運営で気づいたことを発信し、改善に向けた取り組みをすること。

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 82世帯(利用者総数 96名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

96

82

82

60

73.2

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(97%、58人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(98%、59人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問4. 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか

問11. お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか
(各々 95%、57人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	59	1	0	0
<p>保育園で学んでくることもとても多いと感じている。いつもありがとうございます。 毎日身体を動かした遊びをしてきている。 両親や家族だけでは出来ない体験や学びが保育園でたくさん出来ていると感じます。また、同世代のお子さんとの集団生活では多くの事を感じ、良いことも、時には悪いことも吸収しているのを感じ、とても良いと思っています。 などの意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	57	3	0	0
<p>車のおもちゃや、家におもちゃもたくさんある。また、汚れてもいい遊びもやってくださってありがたいと思う。 水遊びやおままごとなど、創作意欲の湧く遊びをしてもらっている。 何事も楽しく取り組んでいるように見受けられます。年末に東糀谷保育園に行った際、男性の先生がいらっしや、一緒にサッカーをしてくれました。こんな風にスポーツに触れられるのもいいなと思いました。 などの意見があった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	53	7	0	0
<p>栄養士さんが考えてくださってるので安心しています。 手作りで健康的な食事なので非常に助かっている。 給食は季節ごとの食材等を使用したものになっていて、栄養バランスにも配慮されていると感じます。またおやつに関してはかなりボリュームがあり、ただのお菓子等ではないのが良いと感じています。 などの意見があった。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	57	2	1	0
<p>たくさん生き物にふれさせてくださってありがとうございます。 コロナも明けて、ちがう学年との交流も楽しんでいる様子。 園庭が広く、すぐ近くに多摩川の土手もあるので、都内にいながらとても自然に触れられる環境です。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	7	0	2
<p>当日に連絡してもスポットが空いていれば預けられるので、精神的にも頼れる先があるので助かっている。 助かってます、いつもありがとうございます。 仕事の帰りのバスが渋滞してしまって、お迎えが延長保育枠になってしまった時も、優しく出迎えてくださりました。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	52	7	1	0
<p>子供に門を開けさせない仕組みが良いと思います。 出席確認や、散歩の点呼もしっかりやっていると保護者会で説明があった。 安全対策や何かあった時の対応報告はしっかり行ってくれている！ などの意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	42	14	4	0
<p>特記すべき意見なし。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	55	4	1	0
<p>子供だけでなく、親のことも気にくださる、素敵な環境だと感じています。 相談やアドバイスをしてくれます。 少し心配事に対しても話を聞いてくれ、一緒に解決していこうという配慮が見られます。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	5	0	0
<p>ゴミもなく、変な匂いもせず、いつも清潔に保たれていると感じます。 古い園舎なのにもかかわらず、掃除が行き届いていてすごい。 月に一度親子で製作できるコーナーがあり、こどもも楽しみにしている。園内も清潔だと感じる。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	8	1	0
<p>親しみがあっていつも安心します。 みなさん優しく、言葉遣いも丁寧なので、子供も丁寧な言葉遣いを覚えている。 などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	3	0	0
<p>小さな怪我でもどうやって起きたかを教えてくれる。 私たちが気づかないような部位(足の裏など)で、恐らく家庭内で作ってしまったであろうかすり傷にも気づいていただけています。保育園内で怪我をしてしまった際も、その後の対応まできちんと教えていただけているので不安に思うことはありません。本当によく見ていただけていると思いますし、家庭内での怪我の注意にも繋ぐことができています。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	53	5	0	2
<p>しっかりと事実を伝えて相手の親に謝れる環境を作ってくれる。 と言った意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	56	4	0	0
<p>尊重していただいていると感じます。めんどくさいのにありがとうございます。 話を最後まで聞いてくれる。 などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	55	3	0	2
<p>仕事のことについて他の人がいる前で話をしてくる。 病気で人と会話ができなくなった時、お迎えの時間を早めにしていただいたり、他のママさんと極力会わないようにしていただき、本当に助かりました。申し訳なかったです。 などの意見があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	56	3	0	1
<p>すくすく面談では、とても丁寧に対応いただきました。ありがとうございます。 保護者会で写真で説明してくれる。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	54	6	0	0
<p>わからないことがあれば、しっかりと教えてくださるのでいつも安心です。 と言った意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	37	15	5	3
<p>特記すべき意見なし。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念、目標への理解が進んでいる素地を活かし、一層の取り組みを期待する 保育理念や園目標は玄関に掲示され、各保育室には園目標が掲示されており、保育園の案内や見学会のしおりにも保育理念や基本方針、園目標が明示されている。また入園オリエンテーションや重要事項説明書等で保護者に対して説明している。現状でも、職員調査結果では職員の79%が園が目指していることを理解しているなど、良好である。この素地を活かし、今後、年初の職員会議などで、理念を具体的に展開するための資料を用意し説明を行うことで、理念や目標への更なる職員の共通理解の深まりが期待される。	
	園長が業務、研修両面の計画等を指導して自らの役割に従い園運営をリードしている 園長や主任等の経営層の役割に関しては「大田区保育園人材育成指針」に明記しており、園長は職員会議で参加した区の園長会等の内容を必要に応じてプリント配布等で職員に伝えている。個々の職員に対しては職員に記入させた「職員育成面談シート」を基に、職員一人ひとりの目指す将来像と実現に向けたキャリアデザインや、園目標を受けての本人の課題、本人や園長が希望する業務、研修両面の計画等を指導して自らの役割に従い園運営をリードしている。	
	重要な案件は職員との協議を経て決定、行動し経緯と結果を保護者に伝えている 職員会議等の議題は事前に園長と確認し、優先順位の高い順に議題としている。危機管理など園で課題となっている5つの事項に対してはそれぞれ職員が参加してプロジェクトチーム(PT)を組織して解決すべく取り組んでいる。その活動経過については職員に周知している。今年度、「運動会参加人数緩和」案件において主任や主査と共有した後、全職員に周知し、保護者に対しても手紙での配信内容を必ず読んでいただくよう声掛けして、重要な案件の決定内容と決定経緯を伝えている。	

2			カテゴリー2
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー2の講評			
<p>保護者や職員の意向を収集しニーズを把握して課題を検討する取り組みがある</p> <p>保護者からの意向は保護者会後や行事参加後、保育参観後のアンケート、すくすくプランを活用した個人面談、玄関に設置した「ひとこえBOX」などで収集しており、その中からニーズを把握している。アンケートはまとめられ全職員が閲覧し、課題はリーダー会議や職員会議で検討し次年度計画に反映している。事業所運営に関わる職員の意向は、リーダー会で検討しており、各職員が参加する5つのプロジェクトチーム(PT)が今年度取り組みたい内容も全職員に周知している。PT活動や園内研修など、職員が主体的に取り組む機会がある。</p> <p>前年度および今年度事業計画を併せての事業報告書の作成が望まれる</p> <p>令和4年度から6年度までの3年計画(中期計画)があり、それに基づいて今年度事業計画や全体的な計画及び指導計画、安全計画、子育て支援計画等の単年度計画が策定されている。さらに、前年度事業計画の施行結果を総括する事業報告書の作成があれば、解決すべき課題をより明確にすることができる。達成すべき理念や園の目標、計画に対していかなる行動をするか、振り返りや評価を明確にするために、前年度事業計画と今年度事業計画を併せての事業報告書の作成が望まれる。</p> <p>職務分担を明確にして、各担当職員が計画立案と進捗状況を確認している</p> <p>保育理念や保育の基本方針を実現するために園内公開保育や子育て支援、園内研修、防災、危機管理の5つのPTを立ち上げており、それぞれ調理を含め7名くらいの職員が担当している。また、組織表や職員の職務分担を明確にして、各担当職員が計画立案と進捗状況を確認している。クラス運営に関することや、PTの取り組みに関すること、行事に関することはそれぞれ進捗状況を報告する時期が決定しており、振り返り、反省をして見直しをしている。PT活動は園運営の活性化に寄与している。</p>			

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

法律や倫理について服務規定等の読み合わせなど、理解が深まる取り組みをしている
全職員に対して守るべき法や規範、倫理を周知するため、個人情報保護方針に関してはプライバシーポリシーを提示したり、職員の服務規程や区の「こころを育てる大田の保育」により職員の心得などを読み合わせをしている。その後グループに分かれて具体的に話し合い、共通理解として発表し、園の考えとしてまとめて冊子にしている。今後、玄関やクラスへの「全国保育士会倫理綱領」の掲示も検討の余地があると思われる。

保護者からの苦情や虐待の疑いのある情報は、大小に関わらず園長や主任に報告している
保護者の意向は玄関に「ひとこえBOX」を設置したり、保護者会やイベント後のアンケート等から収集している。苦情等を受けた際は大小に関わらず事務所に報告し、園長や主任が経緯や事実関係の確認を行い、対処する方法を検討している。保護者や子どもへの気持ちを傷つける言動等の不適切場面は職員同士で気づきを伝えたり、人権セルフチェックの実施や園内公開保育で気付いた点を指摘するなど、組織的に防止対策を行っている。虐待を受けている疑いのある子どもについては園長や主任に報告し、また、全職員に情報を共有している。

地域支援事業に地域からの参加募集活動を行っており、多数の参加が見られている
地域支援としては、園見学時その他の育児相談に応じたり、園内の「なんろく広場」で地域の親子が園の子どもたちと遊べる事業をしている。区で発行する「育児応援券」を利用して、体験保育、育児相談、保育園の給食を無料で試食することもできるが利用者は少ない。区から起震車に来てもらい体験訓練も予定しており、地域からの多数の参加を期待したい。地域のネットワークとしては、地区別園長会や地域施設会議、保・幼・小連携合同研修会等に参加しており、近隣の児童館へ給食レシピ等を渡している。今後の交流を期待する。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>危機管理や防災プロジェクトチームが対策を職員間で情報共有し、機能している</p> <p>当園では事故や災害等のリスクに対し、どのリスクに対策を講じるかの順位付けを、子どもの命に係わることが優先度が高いとしている。従来一体だった危機管理プロジェクトチーム(PT)を危機管理と防災の各PTに分け、よりこまかな課題にスピーディーな計画づくりに務めている。危機管理PTは災害発生時ツアーを実施し、係とルート確認をするなど、各クラスの危険箇所を取りまとめ職員に周知している。その他アレルギー食、宗教食、不審者対応などの対応の仕方についても職員に周知しており、PTが機能している。</p> <p>事業継続計画(BCP)を職員や保護者に対して理解を深める取り組みがある</p> <p>深刻な事故や災害に遭遇した場合の事業継続計画(BCP)は、区で策定されたBCPに対し当園の実情を勘案して策定されている。基本方針や初動対応、ライフライン復旧までの留意事項および対応策、当園で考えた被害想定、自衛消防隊組織表の役割分担、区との連携など必要な事項を網羅したBCPとなっている。職員調査でBCPに対する職員の周知度は高く、職員が理解する取り組みが実施されていることをうかがわせる。保護者へも総合防災訓練時に理解してもらい取り組みがある。</p> <p>個人情報保護方針を重要事項説明書に明記し、情報管理を適切に行っている</p> <p>各クラス用のパソコンは事務所に8台あり、クラスへの持ち出しはできるがパソコンには鍵を取り付けて外部に持ち出せないようにし、鍵は園長と主任が管理している。パソコン内の情報はパスワードでアクセス制限をし、個人情報等の重要情報の漏洩防止に努めている。閉園時に重要情報は鍵のかかるキャビネットで保管し、持ち出しを禁止している。園ではプライバシーポリシーを取得しており、個人情報保護方針を重要事項説明書に明記し、利用目的の明示および開示請求への対応をしている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

キャリアパスについて職員の79%が理解できていると回答している

職員調査には職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスが職員に理解されているかの質問に対して無回答者が多かった。これはキャリアパスについての資料が「大田区保育園人材育成指針」や就業規則、賃金規則などに分かれ、わかりにくいためと推測され、キャリアアップテーブルの作成も一つの方法と思われる。ただ職員調査では職員の79%が理解できていると回答している。園長は職員との面談シートの中でキャリアデザインを記載させており、それに基づいてキャリアアップ研修等を推奨している。

園の求める人材像を踏まえ職員の意向や仕事に対する姿勢に合わせ人材育成をしている

職員には内外問わずさまざまな研修の受講の機会が与えられている。職員一人ひとりの目指す将来像と実現に向けたキャリアデザインや、園目標を受けての本人の課題、本人や園長が希望する業務、研修両面の計画および取り組みの状況、振り返り等を、職員面談シートに記入させて、園長は面談シートをもとに職員の仕事に取り組む姿勢や本人の課題などから、個人別の育成計画を策定している。若手人材の育成は担当に任せきりにせず、園長、主任、主査も一緒に育成に取り組んでいる。

園長は話しやすい雰囲気づくりを心掛けて職員の意欲の向上に取り組んでいる

職員調査で「園長が職員や保護者の話をよく聞いてくれて相談しやすい」との声があるように、園長は日ごろから職員とのコミュニケーションを密にとり、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。先ず話をよく聞き、希望に対しては特別のことはない限りやらせてみて、意欲の向上に取り組んでいる。職員会議での研修報告の際はアイスブレイクを取り入れたり、若手職員が園内研修の企画を考えて若手が発信する機会を設けている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>課題・目標 保育をする中で安全に対する職員間の認識の違いがあるという課題があり、3か年中期計画の中で令和4年度の取り組みとして、安全保育の手引きの共通認識づくりを目標として、安全保育をテーマとした園内研修に取り組んだ。</p> <p>取り組み 年度初めの職員会議で、安全保育の手引きの読み合わせをした。・園内研修プロジェクトチーム(PT)を中心に安全保育の手引きの配慮事項を共通認識するため、4グループに分かれてグループディスカッションをして、共通認識した内容をまとめて職員に配布し、全職員に周知した。</p> <p>取り組みの結果 散歩に出かける際に全体を把握するリーダーを決めてから出かけるなど、職員一人ひとりが自分の役割を意識して行動するようになり、散歩中の不審者の存在に気が付けば園長と連絡を取り指示に基づいて行動するようになった。</p> <p>今後の方向性 園内外でチェックすべき点が明確になったことで、次年度は安全計画の見直しと、職員への周知を徹底しながら保育の質の向上を目指す。令和5年度の全体的な計画にも、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養うことを保育の目標としている。</p>	
目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>安全保育を目標とし、常に問題意識を持ち心にゆりみなくリスクマネジメントを怠りなくすることは保育園運営の基本であり、PDCAの(計画)としての立案は必然と思われる。その達成手段として、園内研修で安全保育の手引きの内容を共通認識し、全職員に周知徹底するなど適切に実施している。また、取り組みの結果、職員一人ひとりが自分の役割を意識して行動するようになり、必要な報告が速やかに園長まで上がるなど成果も確認している。さらなる徹底に向けては、例えば散歩時の安全チェックシートとして携行させる手段も有効と思われる。今後の方向性として、次年度以降の事業計画に安全計画の見直しを検討することは、コロナ禍や環境の変化等が容易に起きる現在、スピードをもって実行することを確認している。また、そのためにも令和5年度に従来一体だった危機管理、防災PTを危機管理と防災に分けてPTを立ち上げ、計画を強化するなど、前年度の取り組みが次年度に活かされており、PDCAは適切と思われる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

課題・目標 3か年中期計画の令和4年度の目標に「子どもたちの自己肯定感を育む保育をテーマに園内公開保育をする」としており、保育理念としている「一人ひとりの子どもが、愛され信頼される喜びを、保育士や友だちとお互いに感じ合える」保育園を目指す。
取り組み 園内公開保育PTが中心となり計画を立案し、全職員が公開保育に参加した。・公開保育実施後には感想、意見、課題点を参加クラスに提出させ、実施クラスは振り返りを行い、課題を意識しながら保育を進めた。・参加クラスは年齢ごとに子どもの自己肯定感(端的には愛されているという意識)を養うための関わりのポイントを考えた。
取り組みの結果 公開保育でお互いの保育を見つめあい、実施したクラスは参加したクラスから指摘されて自信がもてる点や課題点に気づき、参加クラスは事例を自クラスでの取り組みと照らし合わせて検討(水平展開)し、適切な子どもとの関わりができるように意識が向上した。
今後の方向性 令和5年の全体的な計画の保育の方法には「子どもの自己肯定感を養うよう対応する」としており、公開保育で実際に保育する中で困っていることや助言を要する点について話し合うこととしている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、昨年度、保育理念に基づき、「子どもたちの自己肯定感を育む保育をテーマに園内公開保育をする」ことを目的とし、園内公開保育に取り組んだ。園内公開保育では、PTが中心となって計画を立案し、全職員が参加した。公開保育後、感想や意見をクラスに提出させ、保育を公開したクラスは振り返りの結果を意識して保育を進めた。また、参加したクラスは年齢ごとに子どもの自己肯定感を養うための関わりのポイントの考察につなげた。こうした取り組みの結果、公開保育に臨んだクラスも、参加したクラスも適切な子どもとの関わりができるよう意識の向上が見られた。このように、公開保育の取り組みは、職員調査の意見にもあるように、「お互いの保育から良いところを認め合い、気づきや疑問、問題点を明確にし改善して保育の質を高められる実践となっている。今後の方向性として、令和5年の全体的な計画には、「子どもの自己肯定感を養うよう対応する」を位置づけ、公開保育において実際の困りごとの相談や助言をすることとするなど、PDCAサイクルは適切に行われている。公開保育は、園内の各クラスが保育を見学し、良い点を自分のクラスに応用するなどの水平展開を可能にしている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○ 非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○ 非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○ 非該当
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>利用希望者には、区のホームページで入園申し込みや空き状況などの情報を提供している</p> <p>利用希望者には、区のホームページに、入園を希望する方への申し込み方法や申込書類をダウンロードできることなどの情報とともに、欠員情報、延長保育の空き情報、育児休業明けの予約制度などが掲載されている。また、施設案内や育児相談があれば保育サービスアドバイザーへの申し込み情報の提供や、保育園マップもあり、園目標、行事、園の特色なども掲載され、必要に応じて情報を入手できるようになっている。</p> <p>園の事業内容は子育てハンドマップに掲載し、パンフレットを地域の施設に配布している</p> <p>区で発行している、子育てハンドマップには、育児に関するサービス情報が掲載され、子ども子育てマップ欄に保育園の情報として、園の概要が掲載されている。園では地域向けパンフレットを作成し、児童館や図書館などの公共施設には、保育園の子育て行事や給食のレシピなどを置かせてもらっている。区には毎月、在籍状況や感染症情報を報告したり、地域連絡会では園の地域に向けた子育て支援の取り組みの情報を提供している。</p> <p>見学の希望者は電話で申し込んでもらい、見学日を設け園内を案内している</p> <p>見学の希望者には電話で申し込んでもらい、保育園見学会受付簿に記録している。保育園見学会の日を設け、10時と13時30分の1日2回、1回に5名で実施をしている。人数に対しては5名以上でも保護者の希望に応じて受け入れている。見学日には、見学会のしおりや園事業のパンフレット、育児応援券等を配付し、主任が園舎内を案内している。1階施設で狭いため見学は廊下で保育室内を見てもらうようにしている。在園児にはお客さんが来ていることを伝えている。見学後にはアンケートを実施し、見学をした理由や説明に対する意見などを把握している。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保育の開始時には、オリエンテーションと面接を行い重要事項の説明をし同意を得ている 入園の決定は、行政から保護者に連絡が行き、入園に必要な書類は園に取りに来てもらっている。その後土曜日にオリエンテーションを実施し、重要事項説明書に沿ってプレゼン用ソフトを使っての説明を園長が行っている。面接は保育士が子どもの生活状況や健康面、保育時間などを聞きとり、その後園長面接を実施している。個人情報の利用目的についての承諾書や重要事項説明に関する同意書を面接時に提出をお願いしている。重要事項説明書に沿って説明をしているが、同意書にはすべての説明内容の同意項目になっていないので検討が必要と思われる。</p> <p>保育に必要な情報は入園面接で把握し、区の統一書式に記録し、職員間で共有している 保育に必要な子どもの情報は、児童票や児童調査票、食材摂取確認票などの区で統一した書式に保護者が記入し、面接時に持参してもらい、記録内容を保護者と一緒に確認をしている。特に熱性けいれんや宗教食などの配慮が必要な場合には、付箋をつけるなどして園長と連携が取れるようにしている。面接で得た個別の情報は、新入園児面接報告書に面接担当の保育士が記入し、職員会議で個々の子どもの状況が報告がされ、クラスで把握し保育ができるようにしている。</p> <p>入園日には保護者と一緒に過ごしスケジュール表を基に相談して保育時間を延ばしている 慣らし保育の実施には、園としてのスケジュールは概ね10日ほどを予定しているが、子どもの状態や保護者の就労状況により、相談しながら進めている。1歳児については入園1日目は昼食まで、保護者と一緒に過ごしてもらうことをお願いをしている。2日目からは、保護者と相談しながら、昼食までや午睡後、おやつを食べるなど子どもの様子を見ながら保護者と約束した保育時間に行っている。幼児の転園児はすぐに1日保育になるようにしている。慣れ保育中は、主任や主査が応援に入り、子どもの不安を軽減できるように個別に関われるよう配慮している。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの心身や生活状況を保育活動の中で把握し、区の統一した書式に記録している</p> <p>日々の子どもの姿は、1歳児と2歳児は連絡帳と3歳児から5歳児は健康チェックカードで把握するとともに、保育活動の様子を保育日誌に記録し、健康面は園長や主任が把握し保健日誌に記録している。1歳児と2歳児は個別の指導計画を作成し、3歳児から5歳児は、保育日誌に特記欄を設け、個別の状況を記録できるようにしている。保護者と子どもの育ちや課題を共有するために、すくすくプランの作成をしている。子どもの発達の様子は1歳児と2歳児は3か月毎に、3歳児から5歳児は年4回記録している。これらの記録は、区で統一した書式になっている。</p> <p>全体的な計画を基に年間指導計画を作成し、子どもの事例を基に話し合い見直しをしている</p> <p>区と園長会で作成した全体的な計画を踏まえ、1年間でクラスの特徴を踏まえ育てたい力について話し合う時間を設け、各クラスの年間指導計画を作成している。保育の取り組みや子どもの姿を記録して、反省や評価を基に次月の計画作成をし、すくすくプランは個別の計画に活かすようにしている。園内研修で個別の事例を取り上げ、グループで子どもや保育者、保護者の気持ちを出し合うなどして、子どもや保護者理解を深める機会になっている。</p> <p>日々の子どもの情報は朝礼で交換し、朝礼ノートに記録し、把握できるようにしている</p> <p>毎朝8時30分から各パートの代表者が参加して朝礼を実施している。朝礼では、事務連絡や喫食状況、アレルギー児の確認、保育体制、ケガ報告、スポット利用などを報告があり、クラスノートに記入しクラスで報告をしている。朝礼ノートは事務室のテーブルに置き、出勤したら確認することになっている。クラス会議やリーダー会などの記録を見る習慣をつけ、全体で情報を把握し、共有して保育をしていく意識をもてるようにしたいと考えている。</p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>区の個人情報保護条例に沿って保護者に説明をし承諾書の提出や関係機関と連携している</p> <p>区の個人情報保護条例に沿って、情報の保護や関係機関との連携を図っている。重要事項説明書の中で、プライバシーポリシーとして、個人情報保護法の説明をし、個人情報の収集や管理、目的外使用の内容を伝えている。保護者には園だよりやクラスだより、写真・ビデオの撮影などで情報の記載をすることへの承諾を得るようにしている。また、転園などで個人情報の受け渡しの際には、承諾を得るようにしている。保育所児童保育要録の小学校への提出については、5歳児の保護者に事前に説明をし、開示請求ができることも伝えている。</p> <p>子どもの羞恥心に配慮して環境を整えたり、職員の言動を振り返る機会をつくっている</p> <p>子どもの羞恥心に対しては、着替えや身体計測時には、男女分かれて行えるように間仕切りカーテンを使用したり、プールの身支度にはラップタオルを使用するなどの配慮をしている。子どもの人権については、年度初めに安全保育の手引きを読み合わせたり、園内研修で個人ワークやグループワークを通して学ぶ機会をつくったり、人権のセルフチェックシートで自己チェックを年1回実施し、園長に提出をして、言動を振り返る機会をもっている。子どもへの不適切な言葉かけなどに対して、職員間で気づき合える関係を構築できるよう事例研修を計画している。</p> <p>虐待ケースに対応できるように、虐待防止のマニュアルを配付したり対応を確認している</p> <p>虐待や育児困難家庭など、支援の必要な家庭に対しては、職員会議などで情報共有をして、保育園でできることを共通理解して、支援できるようにしている。虐待対応の研修はほとんどの職員が受講し、職員会議で研修内容を報告し、還元できるようにしている。虐待防止マニュアルは職員に配付し、読むことを促している。虐待かなと疑いをもったときには、園長または主任に報告し、状況を確認し、担当課の指導を仰ぎ、関係機関と連携をすることになっている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
業務の標準化を図るために、区のマニュアルや園独自のマニュアルを整備している 業務の標準化を図るために、区で作成しているマニュアルや手引書と園で作成している保育園マニュアルを整備している。保育園マニュアルには、園の概要や保育方針、園運営、危機管理、苦情対応、虐待、延長保育など多義にわたり、また、区で作成しているマニュアルも混在しているので、分類整理が必要と思われる。職員には、事故防止、防災マニュアル、生活マニュアル、安全計画などを配付し、クラスには誤嚥窒息マニュアルを置き、活用できるようにしている。マニュアル類は事務室の書棚に置き、いつでも見られるようになっている。		
園舎内外の点検を定期的実施し園内の安全確保に努め、マニュアルの見直しをしている 園のマニュアルなどの見直しは、年度初めに実施し、始めに主査会で検討をし、それをリーダー会でさらに検討をするなどの方法を取り、多くの意見を取り入れるようにしている。園舎内外の安全点検は、毎月実施される避難訓練当日に各クラスで実施している。点検実施後、園長に提出し、改善が必要な個所ですぐに対応できるか、担当課に報告をして修繕を依頼するかを精査している。園舎の老朽化もあり、迅速に対応できるようにしている。		
業務の見直しに際して、保護者からアンケートをとったり職員からの提案で改善している 業務の見なおしにあたっては、行事の取り組みでは、実施後の反省会や保護者からアンケートを取り、課題を明確にして次年度に活かせるようにしている。職員から、園庭が暑く外に出る機会が少なくなっているとの意見で、遮光ネットを設置し園庭で遊ぶことができるように改善している。また、園舎の老朽化に対する多くの意見もあり、担当課と協議して改善につなげている。マニュアルの変更を周知できるように、変更ファイルを作成し、変更前後がわかるようにしたいと考え、計画中である。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>保護者との会話や保育中の様子から子どもの全体的な姿を把握し指導計画を作成している</p> <p>入園時の子どもの状況は保護者が記入した児童調査表、成育歴、既往症、食事の状況等の書類や入園面接の情報から把握をしている。入園後には保護者との会話や連絡帳(1・2歳児)、健康チェックカード(3・4・5歳児)と、保育中の様子から子どもの全体的な姿を把握し、職員間で共有して記録に残している。子どもの姿を踏まえ、園の全体的な計画を基に各クラスで年間計画、月の指導計画、週案を作成し、子どもの様子は保育日誌や児童票に定期的に記入して育ちの経過を追っている。指導計画は振り返りをして次の計画に反映させている。</p> <p>子ども自身が考え興味をもった遊びが展開されるように環境構成に配慮をしている</p> <p>子どもの主体性について興味や関心をもって自ら遊びを選んで決め、遊びが広がって友達関係が作られるようにしたいと考え、環境構成を工夫をしている。各保育室にはままごと、絵本、机上の遊び等のコーナーを設置して、玩具を入れる棚は子どもの年齢に合わせた高さになっている。玩具は木製の車や連結できる自動車は籠の中に保管され、保育士手作りのままごと道具、ブロック、パズル等とともに棚から出し入れをやすくして、自分で選んで遊べるようにしている。園内公開保育研修を実施し、保育士それぞれの気づきを話し合い実践に活かしている。</p> <p>子ども同士のトラブルについては発達の特徴や経過、改善点等を保護者に伝えている</p> <p>子ども同士のトラブルがあった時は、子ども双方から思いを聞いて一方的にならないように仲立ちをしている。クラスだよりや保護者会で園での子どもの様子、年齢ごとの発達の特徴と保育士の具体的な関わりについて分かりやすく伝えている。保護者にはひっかきやかみつき等の場合は、発生時の状況と今後の改善点を伝え、止められなかったことに謝罪をして、成長過程での発達の段階として双方に理解を求めている。送迎時に保護者同士が顔を合わせることもあり、双方への説明で、相手の保護者に謝罪やすい環境を作ってくれているとの意見がある。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には健康観察を行うとともに家庭での様子を口頭や連絡帳で確認して把握している</p> <p>受け入れ時には早朝担当の保育士や担任が子どもの顔色や機嫌等の健康観察を行い体調の把握と家庭での様子の聞き取りをしている。連絡帳(1・2歳児)には体温や食事や睡眠、排便の有無等と家庭での様子や連絡の記入があり、降園後の様子を把握できるようになっている。健康チェックカード(3・4・5歳児)で体調の把握をし、家庭からの連絡がある場合にはクラス毎の遅早連絡表に記入している。出勤時にはそれらに必ず目を通し子どもの情報を把握して保育を行うようにしている。</p> <p>基本的な生活習慣の自立については発達の過程を捉え子どもに無理のないように進めている</p> <p>基本的な生活習慣の大切さについてはクラスだよりや保健だより、給食だよりで発信するほか、保護者会でも伝えている。1歳児の保護者会の開催時に区の栄養士に来園してもらい、朝ご飯の大切さについて具体的な内容で話をしてもらったところ、保護者の意識にも変化が見られている。トイレトレーニングや箸の使用等の基本的な生活習慣の自立に取り組む際には、子どもの発達の状況を捉えて保護者と相談して無理がないように進めている。また、食事、着脱の仕方、排せつ等の手順や保育士の関わり等の生活マニュアルを作成して援助を行っている。</p> <p>保育中の子どもの様子は口頭で伝えたり、トピックスにして可視化をして知らせている</p> <p>降園時には保護者とコミュニケーションをとるように心がけ、その日の子どもの様子やエピソード等を伝え、各クラスの保育内容と子どもの様子を日報として掲示で伝えている。1・2歳児は連絡帳でも、園での様子を記入して知らせている。週案は保育のポイントの掲示があり、行事前の取り組み中の様子や、食育活動、異年齢交流等のイベント時には、写真にコメントをつけて、トピックスとして掲示で知らせている。保育内容や取り組みの様子は可視化をして知らせていることで、保育内容の説明について利用者調査では保護者の満足度も高くなっている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園内研修を行い、学びを深め子どもが遊びを選んで遊び込める環境にしている</p> <p>プロジェクトチームを立ち上げ担当を決めて、昨年度は「子どもが主体的に遊べる環境づくり」について園内研修を行ってきた。園内研修では、大学の教員を講師にして講義と話し合いをもち、1歳児クラスの公開保育を実施したり、学びを深めて実践に反映させてきた。子どもが興味を持って集中しているときにはプログラムの変更をしたり、作りかけのものは保管して遊びを継続させている。また、各クラスの玩具類は写真を撮って、遊び方の説明を付けた玩具リストを作成して、季節や子どもの興味、関心に応じて入れ替えをしている。</p> <p>子どもが様々な表現活動を楽しめるよう意見を聞き環境設定や時間の工夫をしている</p> <p>毎日の保育や行事を通して子どもがイメージして感じたことの表現や、好きな遊びを通してのびのび表現をして楽しめるようにしている。例えば、行事実施時にはどんなふうにやりたいのか意見を聞いて、制作物を作ったり、好きな絵本のペープサートを作ったり、登場人物の役になりきったりして遊んでいる。また、幼児組はホールを使ってダイナミックな構成遊び(積み木等)をしたときには、開始は午睡後の午後にして、そのまま次の日も継続して遊べるよう工夫をしている。子どもは保育士と一緒に作り上げることを楽しんでいる。</p> <p>恵まれた自然環境を活かして四季が感じられる保育活動を行っている</p> <p>自然環境豊かな場所があり、積極的に散歩に出かけている。近隣には14か所の公園等があり特徴や遊具を書いて、分かりやすい散歩マップを作成している。隣の広い土手ではそり滑りや走り回って遊び、四季折々の草花を摘んで虫探しを楽しんでいる。迷い込んだカニやカマキリ、アゲハ蝶を大切に飼育をしている。園庭に植えられた梅、琵琶、柿等の木の実にはジャムにして食べたり、秋には金木犀が香りを放つ環境がある。春になると燕が毎年巣を作って子育てするので親子で楽しみにしている姿があり、燕通信を発行して興味を持って観察できるようにしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や関心をとらえて楽しんで取り組めるよう行事を実施している</p> <p>新年の集いや節分等の伝統行事を実施する場合には、その由来や本来の意味を伝え、人との関わりの行動として伝えていきたいと考えている。また、運動会やお楽しみ会等は子どもが興味や関心をもって楽しんで取り組み、積み重ねてきたものを親子で楽しめる会にしたいと考えている。運動会は3・4・5歳児がクラス毎に、演目は子どもと相談して決めて開催をしている。子どもの表情や声をまじかに感じることができ、臨場感もあり時間の短縮にもなっている。縄跳びを家庭でも練習をする姿があるなど、園と家庭で一緒に子どものがんばる意欲に応えている。</p> <p>子どもたちが話し合って意見を出し合って決めた行事を実施している</p> <p>縁日ごっこやお化け屋敷は年長児がクラスで遊んでいた中から、園全体での取り組みとなっている。運動会では、前の年長児が行った旗体操を憧れて見ている、やりたいとの意見が出て取り組んでいる。縁日ごっこでは子どもたちの考えや意見を取り入れ、作って売りたい物ややりたい屋台の売り子を立候補で決めたり、看板やお金も自分たちで作るなどの活動になっている。当日はわくわくしたり緊張しながらも買い物に来た低年齢児に優しく接したり、達成感を感じている姿があり、自信に繋がったことを職員は実感している。</p> <p>年度初めに年間行事予定表を配付して保護者が行事に参加しやすいようにしている</p> <p>保護者参加の行事について日程と内容を詳しく記入した年間行事計画表を、4月中旬に配布をして保護者が調整をして参加しやすいようにしている。保護者参加の行事には、保護者会や個人面談のほかに運動会、発表会(3・4・5歳児)、就学祝い会(5歳児)等があり、運動会等の取り組みの様子や経過については、クラスだよりや行事トピックスとして掲示し、子どもたちの様子を知らせている。コロナ感染症の5類移行後の行事の在り方について、参加人数やねらい・内容について検討していきたいと職員は考えている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>少人数でくつろぎゆったり安心して過ごせるように配慮をしている</p> <p>園は7:15から19:15までの12時間を開所しており、正規職員はシフト勤務で対応し延長番非常勤保育士1名を専任で配置している。毎日固定した顔なじみの保育士がいることで子どもは安心して過ごせ、前日の様子も分かることから、保護者や子どもの様子をより詳細に共有できている。延長保育の利用はスポットを含めても2・3人と少なく、玄関近くの2歳児室で疲れたらフロアマットに横になったりして、くつろいだ雰囲気の中で過ごせるようにしている。延長保育日誌は迎えの時間や遊びの様子等を記入して、翌日の保育に繋がるようにしている。</p> <p>合同保育に移行する時間帯でも継続して遊びが楽しめるようにしている</p> <p>朝は7:15から8:15までは2歳児室(1・2歳児)と、4歳児室(3・4・5歳児)で保育を行い、当番以外の職員が出勤する8:30からクラスごとの保育となっている。夕方の時間帯は18:15までは1・2歳児は慣れている保育室で、5歳児は半数ずつが3歳児室と4歳児室に分かれて過ごしている。18:15以降は2歳児室で全体での合同保育に移行するが、遊びが途切れないよう使っていた玩具を持って行ったり、2歳児室の玩具を使って遊んでいる。クラスの玩具だけでなく延長保育用の玩具も用意しており、特別感をもって楽しく遊んでいる。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>喫食状況の報告や給食会議を実施して味付けや食材の刻みなどに工夫をしている</p> <p>給食は新鮮で安全な食材を使用し、嗜好や季節行事等を考慮した内容で区の栄養士が献立を作成して、2週間ごとのサイクルメニューとなっている。日々の喫食状況は朝礼で報告しており、給食時には調理師がクラス巡回をして食べ具合や嗜好等の確認をしている。給食会議は毎月、園長、主任、調理師の参加で、味付けや食材の大きさ、行事食、宗教食の提供等について話し合い、次回提供時に反映させて、おいしく食べられるように工夫している。給食の時には子どもの座る席を決め、いつもの席で落ち着いた中で食事ができるようにしている。</p> <p>アレルギー食や宗教食の提供に際しては誤食をおこさないように細心の注意を払っている</p> <p>アレルギー食の提供は現在はないが、4月にアレルギー食の提供マニュアルに沿ってシミュレーションをしている。宗教食の除去食の提供の際には、献立表の食べられない食材にマーカーをつけて保護者、担任、調理師、園長とで毎月確認をしている。提供時には、複数人で口頭での確認を複数回するとともに、トレイに配膳をして、誤配や誤食をおこさないように細心の注意を払っている。園で除去の対応が不可能な時はお弁当の持参をお願いしている。体調不良時の配慮食は量の加減や、牛乳を麦茶に変える等の対応を行っている。</p> <p>食育年間計画を作成し、食育活動を通して子どもが食に興味をもてるようにしている</p> <p>年齢ごとに食育年間計画を作成して、野菜の栽培活動(オクラ・パプリカ・ナス・スナップエンドウ)や3・4・5歳児を主にクッキング(おにぎり・月見団子)を実施している。行事食はその行事にちなんだメニューを担当の保育士と調理師とで決めて提供して、給食室前には子どもが読めるように平仮名で今日の献立を掲示している。玄関のエントランスには給食のレシピやサンプル食の展示のわきには食材が置いてあり、降園時には親子で会話をする姿がある。レシピは参考にして家庭でも作っているとの保護者意見があり、児童館や図書館にも置いてある。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>安全・健康教育の計画を作成し日々の保育活動や看護師の支援の下で行っている</p> <p>年間保健計画は4期に分けて毎月に目標を決めて作成をしている。手洗いやうがいの大切さについては、看護師や保育士が話をして正しい手洗いの方法を保育の中で指導している。5歳児を対象に、区の看護師が来園して視力検査の実施や目の話をしてもらい、目の大切さを伝えている。また、安全教育は毎年警察官の指導で、信号の見方や横断歩道の渡り方の交通安全指導を実施しており、日々の散歩時の交通ルールの理解に繋げている。今年度は園の安全計画について、詳細な内容で作成して掲示をしている。</p> <p>定期的な健診の実施や関係機関と連携をして安全、健康について意識を高めている</p> <p>発達に合わせた運動遊びを取り入れ怪我をしにくい体づくりをするとともに、保育中に怪我があった場合には嘱託医を受診している。嘱託医による健康診断と歯科健診は、年に2回ずつ実施、身体計測は毎月の実施で結果は健康カードで保護者に知らせている。今年度は4・5歳児を対象に区の看護師地域支援を利用して、からだのはなし(プライベートゾーン)について、自分のからだも友達のかからだも大切であることや、近付き過ぎない友達との距離感についての話を聞き、2月には5歳児を対象にいのちの話を聞く予定である。</p> <p>SIDSの予防や感染症の発症時には速やかに保護者に情報を提供している</p> <p>子どもの感染症やSIDS(乳幼児突然死症候群)については、重要事項説明書に掲載して知らせたり、予防については保健だよりや保護者会で知らせている。睡眠チェックは1・2歳児は個別で10分毎に、3・4・5歳児については30分毎の全体観察で顔色、寝姿を観察してうつぶせ寝を防いでいる。熱性けいれん等体質上で配慮を必要とする子どもについては、全職員が把握できるようにして、配慮ができるように工夫をしている。園内で感染症が発生した場合には感染症の特徴や家庭で看病する際の注意事項等を掲示し、感染予防と拡大の防止に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況や個々の事情に配慮した支援に努めている 保護者の就労状況や生活状況の変化等は、入園時に提出する書類や送迎時の会話を通して、保護者それぞれの事情を把握して個々の事情に応じた支援を心掛けている。スポット延長保育利用は原則申し込み時間は決めているが、それ以降でも保護者の事情に合わせて対応している。送迎時には保護者とコミュニケーションを取ることを大切にしており、個人面談以外にも随時相談に応じている。親しみがあって安心するとの意見や子どもだけでなく親のことも気にしてくれる等の好意的な意見が多く、保護者の困り感にも寄り添っている。</p> <p>保護者同士が交流する機会を設けたり子どもの育ちの方向性を共有して確認している クラス毎の保護者会は年に2回実施をして、事前に保護者アンケートをとり、議題を決めてグループで話をする機会を設けている。例えば3歳児クラスでは子どもと一緒に遊んで楽しいこと、わが子のいいところはどんなところ等について意見を交換している。交流の場を通してわが子以外の子どもが分かったり、他の保護者のアイデアが聞けて良かったとの意見が、事後のアンケートに記入されている。個人面談はすすすく面談として年2回子どもの良いところや伸ばしたいところを担任と考え、年度末の面談で双方で評価と振り返りを行っている。</p> <p>園や区からのお便りを通し育児情報の発信をしたり、親子で一緒に制作を楽しんでいる 園から発信する園だより、クラスだより、給食のレシピ等と区からの保健だより、給食だよりを通して、園情報や育児の情報を発信している。1歳児の保護者会で区の栄養士に來園してもらい朝ご飯の大切さについて話をしてもらったり、園だよりの8月号は夏バテ解消レシピ等を紹介して、健康を考え、忙しい中でも簡単に作れる育児に役立つ情報を伝えている。保育参加や参観を呼び掛けたり、玄関のエントランスに降園時に子どもと保護者が一緒に簡単な制作や折り紙をする場所を作り、親子一緒に楽しみ出来上がった作品に物語を作って壁面に装飾している。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>図書館を活用したり、2園交流など、子どもが多様な体験ができる機会がある 年長児は毎月地域にある図書館に行き、お話会に参加したり、自分の読みたい本を借りてくる経験をしている。近隣の園との2園交流を年2回実施し、今後は交流園を増やす予定である。地域にある園との交流を通して、多くの同年齢の子と触れ合い多様な経験をする機会がある。広い園庭があるので、地域に向けて園庭開放の広報をしているが、利用者は少なく、1・2歳児が交流できる機会をもてないでいる。小さい子が遊びやすい砂場が土手の側にあり、遊びの様子が見えないなどもあるかと考えアピールの必要が課題と感じている。</p> <p>地域に向けた行事を実施したり、実習生や職場体験を受け入れ交流できるようにしている 園舎の横にある土手には、散歩に出かけることが日常にあり、近隣の人から声を掛けられ、職員も子どもと一緒に挨拶をするなど、自然に交流をしている。子育て支援プロジェクトチームを立ち上げ、園見学会や育児応援券を利用して園内で一緒に遊ぶ機会を作っている。一緒に遊ぶ計画は年間5回で、水遊びをしたり、制作やパネルシアター、親子の触れ合いなどで楽しんだり、起震車体験をする時には園児と一緒に交流する機会にもなっている。中学生の職場体験や保育実習生を受け入れ、子どもたちが職員以外の人と交流する機会をもっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	子育て支援プロジェクトを中心に地域支援を実施するなど、積極的な取り組みをしている	
内容①	子育て支援プロジェクトを立ち上げ、地域に向けた子育て支援を計画し取り組んでいる。見学会や育児応援券、一緒に遊ぼう、園庭開放などを計画し、ポスターを掲示して広報をしている。また見学会の日程や時間を決め受け入れ体制を整えたり、育児応援券事業では子育て相談や身体計測に応じたり、一緒に遊ぼうでは季節の遊びや起震車の体験、親子で制作を楽しむ企画もあるなど、多様な内容になっている。来園者には保育園紹介の冊子やなんろく通信を配付し、児童館には給食レシピを置かせてもらうなど園の機能を最大限に生かし地域支援に力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	5つのPTが機能していることは当園の強味として今後もさらなる展開が期待される	
内容②	当園では対象のクラスを選んで園内公開保育を実施し、他クラスの職員が見学し、良い点は自クラスに水平展開したり、気付いたこと等を話し合っ保育の向上に努めている。また、従来一体だった危機管理プロジェクトチーム(PT)を危機管理と防災に分けるなど、5つのPTを組織して、よりこまかな課題にスピーディーな計画づくりに務めている。その他アレルギー食、宗教食、不審者などの対応の仕方についても職員に周知しており、PTが機能していることは、園内、園外を問わず当園の強味として今後もさらなる展開が期待される。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	子どもの興味や関心を捉えて、園全体での行事の取り組みに繋げている	
内容③	興味を持っている遊びや子どもの意見を取り入れた行事を行っている。例えば縁日ごっこでは5歳児が休み中に経験した夏祭りからチョコバナナ作りが始まり、たこ焼き、かき氷等の食べ物作りへと進みクラスでのお店やごっこへと発展している。小さい子たちにも買いに来てもらいたいとの意見から園全体での縁日ごっこの取り組みになり看板やお金も自分たちで作ったり、役割分担も立候補で決めたり、練習をするなどの活動になっている。保育日誌には当日までの取り組みの展開と生き生きとした子どもの姿が保育者の思いや援助とともに丁寧に記録されている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	広い園庭と自然の環境に恵まれ、園長のリーダーシップのもとPTの活動などによる当園の強味がうかがえる
	内容	園長が就任後2年という短期間ながら、職員調査でも園長が職員や保護者の話をよく聞いてくれるとか、利用者調査でも園長や職員が保育の仕事に真摯であるなどの声が多く、園運営が順調であることをうかがわせる。園内では解決すべき重要な課題について職員の積極的な参加のもと、5つの課題ごとのプロジェクトチーム(PT)を組織し解決に向かい取り組んでおり、PTが機能していることは、園内、園外を問わず当園の強味と思われる。広い園庭と多摩川土手沿いで自然の環境に恵まれ、園長のリーダーシップのもと当園の強味がうかがえる。
2	タイトル	保育士と調理師の連携の下で行事食や給食が提供され、食習慣の違いに対するきめ細かい工夫や配慮をして分かりやすく保護者に発信している
	内容	年間食育計画は年齢毎に年間目標に沿って、ねらい、内容や配慮、家庭との連携等について作成している。給食会議は喫食状況や行事食等について、調理師、園長、主任の参加で毎月実施して、こどもの日の集いではこのほりパンに年齢に合わせたトッピングをして提供している。また、外国籍に係る子どもの在籍も多いことから、遠足に持参するお弁当を作るにあたり、お弁当箱に実際の大きさにおにぎりやハンバーグ等を折り紙で作って、見本を展示し、隙間おかずのレシピ集の配付やクイズで適量を知らせたりして、異文化の家庭に配慮している。
3	タイトル	保護者会の内容の工夫やすすくプランの作成とともに日々のコミュニケーションに心がけて保護者に寄り添った支援を行っている
	内容	保護者支援の研修後には職員会議で、日々の送迎時には保護者とのコミュニケーションと気持ちに寄り添った対応を心がけることを共有している。保護者会ではプレゼン用ソフトで子どもの様子や発達、保育士との具体的な関わり等を分かりやすいよう可視化して説明をしたり、アンケートで議題を決めてグループ懇談を行い保護者同士が交流している。個人面談でのすすくプラン作成は、保護者と一緒に子どもの育てたい力を考え年度末で振り返りの面談を実施している。利用者調査には園への信頼と寄り添った対応への意見が多くみられ高い評価を得ている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中期計画と当該年度の事業計画の整合性および事業報告書の作成による解決すべき課題の明示とさらなる共有が望まれる
	内容	令和4年度から6年度までの3年計画(中期計画)があり、それに基づいて今年度事業計画や全体的な計画及び指導計画、安全計画、子育て支援計画等の単年度計画が策定されている。ただ、中期計画の内容と事業計画の内容の間に整合性を欠く部分があり、また前年度事業計画の施行結果を総括した事業報告書が作成されていないため、解決すべき課題が不明確である点は残念である。達成すべき理念や園目標、計画に向けて、解決すべき課題を明示し、さらなる共有のため、前年度事業計画と今年度事業計画を併せての事業報告書の作成が望まれる。
2	タイトル	職員会議をはじめ、様々な会議で話し合いが行われているが、記録を通して話し合いの経過や決定内容を把握できる記録の工夫を期待したい
	内容	会議は、月2回の職員会議やリーダー会議、1・2歳クラス、幼児クラス、各クラス、給食などの他にプロジェクトを立ち上げ、話し合う機会をもっている。年度の初めに会議の意義や持ち方、効率的に行うためになどの方針を出している。一方、後日記録を通して決定事項を確認したい時に記録からの確認の難しさや職員会議以外の会議の記録が、整理されていない状況が散見される。議事録を通して、園の課題の検討や決定を共有するためにも、会議で確認した取り組み課題がわかりやすい議事録のフォーマットをつくるなど、記録の方法の検討を期待したい。
3	タイトル	園全体の仕事内容を明確にすることで、分担する仕事内容の見直しや職員間の連携の活性化とチームワークの更なる向上を期待したい
	内容	保育士と調理師の2職種を中心に、保健や栄養の部分では他園や担当課からの支援で園運営をしている。職員調査からは仕事内容の明確化や分担などの改善が必要との声があがっている。経験の長い職員が多く、それぞれの経験値で日々の運営が成り立っている部分が多くある。今後、園運営に必要な仕事の内容を明確にして、仕事量の偏りがないかの点検や見直しとともに他クラスへの声掛けなど、職員間の連携をさらに強め、協力し合えるチームワークの向上を期待したい。